

# 科学技術の振興及び 成果の社会への還元に向けた 制度改革について (フォローアップ概要)

平成20年4月22日  
基本政策推進専門調査会

## 経緯

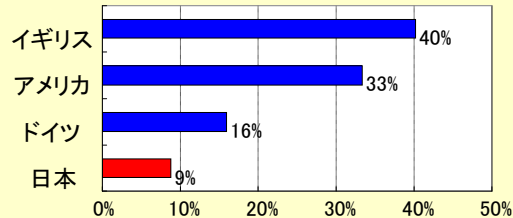
- 第3期科学技術基本計画（平成18年3月閣議決定）に盛り込まれている女性研究者の活躍拡大、臨床研究の推進などについて**全66項目**の改革推進を決定（平成18年12月）
- 各項目について、担当する**省庁**、根拠法令、検討・結論の**期限**などを明記した**工程表**を作成
- 今般、1年が経過したため、工程表に沿って、改革状況の**フォローアップ**を実施

## 1. 優秀な外国人研究者を日本に惹きつける制度の実現（12項目）

### 【問題点】

外国人研究者が少ない

博士号取得者における外国人の割合



出典：Science and Engineering Indicators 2008, NSF

### 【フォローアップ結果】

- **社会保障協定締結国の拡大**〔4カ国(独、英、韓、米)(H18.12)→7カ国(白、仏、加を追加)(H20.3)]など
- **外国人の在留資格の変更等の郵送、電子申請**

## 2. 研究者の流動性を高めるための環境整備（7項目）

### 【問題点】

研究者の流動性が低い

(移動に伴う年金・退職金の不利益が要因の一つ)

### 【フォローアップ結果】

- **退職金前払い制度・年俸制**の導入機関が若干拡大
- 今後は、あらゆる研究機関において広範に導入

## 3. 研究費の公正で効率的な使用の実現（5項目）

### 【問題点】

研究費の弾力的使用を可能とする繰越制度の活用が極めて低調

交付時期が遅い

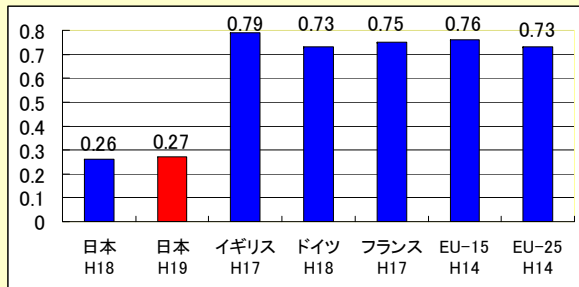
### 【フォローアップ結果】

- **科研費の繰越**は大幅に改善〔10件(H16)→1297件(H19) (申請中)]
- **競争的資金全般で活用拡大**
- 厚労科研費の新規課題については早期化が実現(約90%)
- 競争的資金の継続課題についてはほとんど早期(4~6月)に交付
- **競争的資金全般**について新規課題の交付の早期化

#### 4. 研究支援の強化(3項目)

##### 【問題点】

研究支援者が少ない



1人当たりの研究支援者数

##### 【フォローアップ結果】

○研究支援者の**キャリアパス**を明確化するなど先進的な取組みを行っている機関が存在

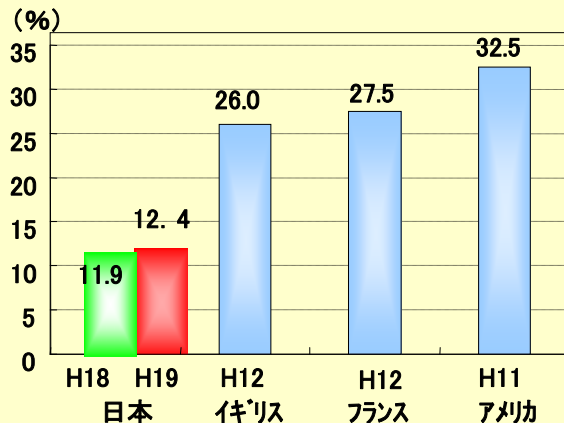
●研究機関が全体として研究支援者を**一括して活用**できる**仕組み**を導入

#### 5. 女性研究者の活躍を拡大するための環境整備(9項目)

##### 【問題点】

女性研究者が少ない

研究者に占める女性割合の国際比較



日本:H19科学技術研究調査報告(総務省)  
その他:H19年男女共同参画白書

##### 【フォローアップ結果】

○任期付研究者の**育児休業給付**の取得条件の緩和

○**次世代育成支援対策推進法改正案**の本国会提出

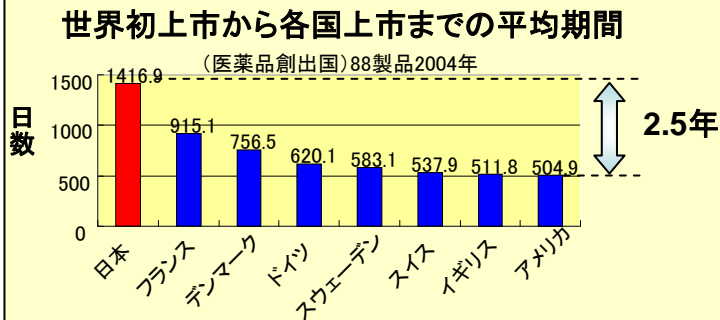
○法が定める最低限の義務以上の取組み  
(育児休業を取得した場合の**雇用契約期間の延長**)

●短期の任期付研究者にとって厳しい**育児休業の取得**条件を緩和

## 6. 治験を含む臨床研究の総合的推進（22項目）

### 【問題点】

日本では新薬の上市が米国と比較して**2.5年**の遅れ



### 【フォローアップ結果】

○医薬品医療機器総合機構の**審査人員の大幅増**  
(H19～H21の3年間で倍増) (H18：197名)

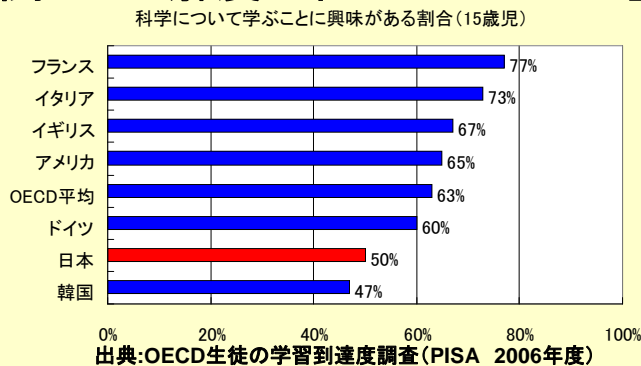
○一定要件の下で、**保険診療と研究に付随する診療が併用可能な保険制度を確立**(H20年4月1日～)

●**H23年度までに2.5年のドラッグラグを解消**

## 7. 国民の科学技術に対する理解増進（8項目）

### 【問題点】

国民の科学技術に対する**関心・理解度が低い**



### 【フォローアップ結果】

○理解増進活動を個人の**業績の評価**としている機関が増加

●**児童生徒、教員、成人等それぞれの関心や理解度を踏まえ、理解増進活動を抜本的に強化**

## 今後について

○66項目の改革事項の**着実な推進**と**更なる制度改革事項**の洗い出し

○さらに、制度改革だけでは解決できない、  
優秀な外国人研究者を日本に惹きつけるための  
**魅力的な環境（待遇、生活環境等）**の整備や、  
日本全体として研究者の**流動性を高めるため**  
の**根本的な仕組み作り**が必要